

巻頭特集

木の育

のススメ

木を育てる、心を育てる。

—— どちらかといえば、おなじこと。



木育とはどのような 取り組みですか？

木で人を育てることで、人を育てるといえるのは心を育てることです。

私たちは活動（木育教室等）で子どもと触れあう機会が多く、日本の木の文化を伝えていく中で子ども達には木を大好きになつて欲しいと思つて活動しています。



木育に取り組むように なった理由は何ですか？

10年前に「NPO法人弘前こどもコミュニティぴーぷる」を立ち上げました。8年前、県産材でおもちゃを作るプロジェクトがあり、木工人・グラフィックデザイナー・津軽塗りのなどの職人が集まり、素晴らしい玩具ができました。その完成した玩具で子ども達や親子で遊んで欲しい、とモニターを依頼されました。

当時は月に1〜2回、乳幼児を対象に子育てサークルを開催しておりまして、そこで玩具で遊んで貰い改善点を見出していきました。遊んでいるうちに子ども達以上に玩具の魅力に取り憑かれてしまったのが我々スタッフ達でした。そうした中で木育という言葉に出会い、木製玩具を広げていくきっかけとなりました。

エピソードは？

子育てサークルを展開し始めた時からご利用頂いている親子がいます。

木製玩具で遊ぶのが楽しいと仰つてくださつて、「おっかけしているんです！」と私たちの出張イベントがあれば毎回遊びに来てくださるリピーターさんです。そういう方がいてくれるのが本当に嬉しく思います。



木育モデル園での プログラムについて

— 遊び体験の目的と目標

遊び体験とは木育の入り口であり、木育というのは幅が広く、山に行つて、図鑑を見て、自然の仕組みを学ぶのも木育と言えます。木に興味を持って貰うため、その間口を広げたのが遊び体験です。私たちの活動全般に言える事ですが「体験しなきゃわからない」といつも言っています。興味を持って欲しい、木の良さに気付いて欲しい、木製玩具で楽しく遊んでほしい。それがこのプログラムの目的です。





— 植物観察の目的と目標
植物観察Ⅱ自然観察です。普段見ている風景を、視点を変えて見ると、もつといろんなモノが見えてきます。こんな話を聞いた事があります。『お魚は切り身のまま泳いでいる』『積み木は山に生えている』等と思っている子どもがいる、と。

遊んだ玩具がどういう木から出来ているかを知って貰い、自然とのつながりを感じて欲しいですし、これらを座学ではなく、遊びの中で楽しみながら学習して貰いたいと思っています。

―木のものづくり体験の

目的と目標

今まで（遊び体験、植物観察で）実際に遊んだ、見た、触ったものを使って、自分たちの手で工夫してカタチにする事で、前に見たものを関連付けていきます。子どもは遊びや、ものづくりの天才です。自分の頭の中で考えたモノを具現化する想像力と創造力を持っていきます。そして、手を動かすことが子どもの発達にとって重要となります。また自分で考えたものが出来上がると、自分で作ったという子ども達の自信（自己肯定感）に繋がります。

木に関するものづくりを通じて、木の良さを体験して貰うこと、そして親子でひとつのものを作る共同作業をする事で、コミュニケーションの機会にもなればと思っております。それはモデル園での作業に留まらず、ご家庭に戻っても同じ事が言えると思います。

木製玩具の中でも積み木は、自分が考えた通りの積み方が出来ます。上手く積み上げられない時は工夫を重ね、どんどん挑戦していきます。また、一人が中心に入り、友達のサポートがあつてさらに高く積み上げ、そうやって自分の目標を達成する事ができます。こういった事が、デジタル機器が溢れている、さらにもっと発展する時代にとっても大事になってくると思います。子ども達にはそういった遊びの中で自己肯定感を得て、協調性をも身に付けて欲しいと思います、人を育てるプログラム「木育」を実施しています。



今後の目標は？

活動を開始して10年が経過し、様々な活動をしてきました。木の玩具と出会った事で、今は木育が活動の大きな柱となっています。県内ではまだまだ木育に取り組んでいる団体が少ないので充実させていきたいと考えています。

私たちは木の玩具を使う事業がメインとなっていますが、以前は玩具を使う以外のイベントでは外に出ていました。小刀を使って小学生と一緒に独楽づくり……などしていましたが、現在は逆に木製玩具の要望が多くなっています。

これからは木育という言葉が普及させ、そして更に知ってもらうために、敷居が高くない誰もが木製玩具で遊べる広場をもっと展開し、お友達同士や親子で木のファンになって欲しいと思っています。そして自然観察や木のものづくりを専門的にやっているところへ、繋げていく橋渡しが役目だと思いい、取り組んでいきたいと思っています。

過去3年間、鱒ヶ沢、深浦、西目屋でイベントを行ってきたところ、だんだん地域に根付いてきました。また来て欲しいという声も頂戴しております。

私どもの事務所が弘前にあるので、中南地域がフィールドだと囚われがちですが、木製玩具に触られる事が少ない地域で、木の良さを知って貰える、また、遊びながら触れられるイベントを展開していきたいと思っています。

青森県産スギチェンソーアート

